

者研究協議会を開催するとともに、家庭教育指導資料を発刊し、関係機関等に配布し、その活用を図った。また、「家庭教育電話相談（すくすくダイヤル）」の充実により、家庭教育上のいろいろな問題や悩みについて、電話による幅広い相談に応じ、諸問題の解決に効果をあげた。

## 2 家庭教育研究集会

- (1) 主催 福島県教育委員会・喜多方市教育委員会  
 (2) 期日 昭和61年5月27日(火)  
 (3) 会場 喜多方プラザ  
 (4) 参加者 300名  
 (5) 対象 市町村教育委員会・公民館の家庭教育担当者及び学級生代表

## 3 家庭教育（幼児期）相談事業

- (1) 実施主体 福島県教育委員会  
 (2) 協力機関 市町村教育委員会  
 (3) 実施時期 昭和61年5月～昭和62年3月  
 (4) 対象 県内の3歳児を第1子にもつ親 12,000名  
 (5) 事業内容  
 ① はがき・しおりによる相談指導（年間5回）  
 ② 巡回による相談指導（県内15市町村16会場）  
 ③ テレビ放送による指導（15分・26回）  
 (6) 各種委員会  
 ① 企画運営委員会  
 ア 企画運営委員会は、本事業全般の企画運営並びにはがき通信・巡回相談・テレビ放送による相談指導の方針や実施要項を策定する。  
 イ 企画運営委員

氏名	役職名	備考
阿部 美一	福島市教育委員会社会教育課長	◎
佐藤 貞雄	県児童家庭課長	
佐藤 延子	福島大学附属幼稚園副園長	
庄司 他人男	福島大学教育学部教授	
鈴木 仁	福島県立医科大学教授	
関 ウタ	福島市社会教育指導員	
西久保 禮造	福島大学教育学部教授	
樋口 勝也	桜の聖母短期大学助教授	
丸子 一夫	県公衆衛生課長	
水野 文雄	福島テレビ報道制作局長	

(◎印委員長)

### ② はがき通信委員会

- ア はがき通信委員会は、はがき並びにしおりによる通信指導の企画運営にあたる。  
 イ はがき通信委員会

氏名	役職名	備考
遠藤 久江	福島県立会津短期大学助教授	◎
大宮 勇雄	福島大学教育学部講師	
今野 金裕	福島県立会津短期大学教授	
須永 秀子	学識経験者	
関口 はつ江	郡山女子大学短期大学部教授	

(◎印委員長)

### ③ 巡回相談委員会

- ア 巡回相談委員会は、巡回相談指導の企画運営並びに市町村を巡回して、直接相談に応じる。  
 イ 巡回相談委員

氏名	役職名	備考
加藤 一夫	福島県立医科大学講師	◎
河野 義章	福島大学教育学部助教授	
小森 澄憲	郡山女子大学短期大学部教授	
庄司 他人男	福島大学教育学部教授	
辻 紀美子	つつみ幼稚園副園長	
林 徹子	郡山女子大学短期大学部助教授	
樋口 勝也	桜の聖母短期大学助教授	
松崎 博文	福島大学教育学部講師	
山脇 道子	福島市野田保育所長	
渡辺 俊彦	福島女子短期大学助教授	

(◎印委員長)

### ウ 巡回相談会場参加者

来談者 661名（個別相談者 169名）

### エ 巡回市町村

国見町、岩代町、郡山市、小野町、玉川村、大信村、棚倉町、猪苗代町、高郷村、南郷村、松枝岐村、相馬市、小高町、広野町、いわき市

### ④ 4・5歳児の家庭教育手引書の配布

県内の4歳児をもつ親を対象に、「すこやかな成長をねがって」を家庭教育資料として配布した。

## 4 家庭教育総合推進事業

- (1) 実施主体 福島県教育委員会  
 (2) 実施時期 昭和61年4月～昭和62年3月  
 (3) 研究主題 「現代社会における家庭教育」  
 ～子どもの成長と家族の役割～

### (4) 事業の内容及び方法

#### ① 企画推進委員の設置

ア 企画推進委員会は、全県的な視野で研究主題をとり上げ、分析検討する。

イ 委員会は研究主題に即して、これまでの成果をとりまとめ、家庭教育指導資料を作成する。

ウ 企画推進委員

氏名	役職名	備考
小野 直広	福島大学教育学部教授	◎
笠原 憲昭	福島市中央公民館長	
菊池 章夫	福島大学教育学部教授	
小森 澄憲	郡山女子大学短期大学部教授	
坂本 善一	県教育センター教育相談部長	
佐々木 篤信	福島県立会津短期大学助教授	
西條 善男	福島県PTA連合会長	
服部 秀文	県教育庁義務教育課主幹	
八島 祐子	福島県立医科大学助教授	
山崎 万紀子	心理カウンセラー	

(◎印委員長)